

## 令和6年度 ほどほどの会

日時:2024年7月16日(火) 15:30~17:00

場所:港北病院

参加者:田中(わおん)、加藤(リンク)、藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、早川(基幹相談支援センター)、小池(港北病院)、霜島、新井田(あかね工房)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

### 【議題】

#### 1. ほどほどの会の普及啓発について

〈在宅医療相談室の打ち合わせ報告〉

65歳以上の方が退院し地域生活できるイメージがつかない

- ・事例をピックアップするところから、生活面での困りごとの例、共通項が見えるとよい
- ・当事者の方のつまずきやすいポイントを浮き彫りにして、ケアプラザの持っている情報と繋げていく
- ・ほどほどの会で集められるつまずきポイントを整理していく

→常盤台病院・港北病院の入院患者リストや、常盤台の新規事例より、病院ではなぜ施設待ち状態が起きているのか、在宅退院に向け何が課題になっているのかを集めていく。

〈地域の援助者を知ってもらうためのアイデア〉

・協働活動として「地域資源を知ろう」など企画し、院内の年間計画に組み込んでもらえると看護師も参加しやすいかもしれない。

・社会資源紹介チラシやガイドブック作成など、資源にアクセスしやすい方法を考えていく。障害に限らず高齢分野も含めて啓発していきたい。

→チラシについては、担当者の変更などによる更新の必要がない情報がよい。見開きサイズで、生活の場・通所の場など写真付きで紹介する。イメージとしては、看護師が患者さんとのコミュニケーションツールに使用できる、相談室に繋げる入口になるようなもの。

※各自でこれまで作成していた資料があるか確認する。社協でも作成しているかもしれない。

・アセスメントシートの見直し

→会の取り組みを院内で啓発する目的でも使用できると良い。

#### 2. ケース検討

##### ①継続ケースの経過

〈常盤台病院〉

高齢、自発性の低さなどから本人の意向確認の難しいケース。退院先の選択肢を増やせるか、退サポ導入のタイミングを検討していく。

→検討中の施設に空きが出たため、面談日調整中。退サポ同席することで退院に意識を向けてもらい、他の選択肢も考えられることをお伝えできるとよい。家族は施設入所の方向性については了承している。

〈港北病院〉

・拒薬、障害受容の低さから支援が途切れることが懸念された方。ルールを守りながらグループホームでの生活継続できている。外来通院継続できている。入院したくない思いからグループホームのルールは守るという意識はある。

→退院後安定しているため、何か動きがあれば会で共有していく。

・昨年度のケース検討後、区役所へ法律相談をした方。本人が第三者へ金銭管理を依頼したい希望があれば、後見人設定を進めていく。親族との関わり方はこれからも変わらないと思われる。

→信仰している宗教の関係により栄養不足、体重減。クレジットカードの使い込みによる金銭面の課題あり、後見人は従兄弟の同意得られず。OTとしては院内で活動性を上げていくのは難しい。主治医としては薬の調整をしても変わらない、後見人設定しサービスを入れられるとよいとの見込み。発達障害を疑い受診したが該当せず。

本人：退院したら自分でお金管理したい、後見人はいらぬ。

## ②新規検討ケース

〈常盤台病院〉

88歳 男性 双極性障害 妻、次男と同居だったが妻の具合悪く、自宅への退院は拒否

ADL 自立しているが誇大妄想あり、服薬中断

本人は家に帰りたい意向、家族の意向を本人へ伝えてみてどう反応するか

→本人が自宅退院することについて、家族間で相談したいとの意向だが返答なし。引き続き病院から進捗確認していく。

## 3. 常盤台病院 OT との協働活動

### ①生活教室の見学

5月28日(火)に常盤台病院より4名参加。「楽しかった、次回も参加したい」との感想があがる。2~3カ月に1回などで定例化、頻度が決まるまでは会で進捗を追っていく。

→7月23日(火)塗り絵のプログラムに6名参加予定。

### ②出張あかね工房

あかね工房利用者さんより、常盤台病院へ出向き実体験の報告会。

日時：9月17日(火)予定。

参加者：利用者さん2名(男性45歳、女性64歳)

精神科病院退院し、グループホームやあかね工房の地域生活へ繋がった方が参加予定。

次回：2024年8月20日(火) 15:30~17:00 場所：常盤台病院